２０２４年１月２９日

藤沢市立明治中学校　学校だより

明中通信 No.９

発行　校長　中尾安伸

＜学校教育目標＞ ひと・もの・ことと豊かに関わりながら たくましく生きる生徒の育成

学校ホームページ　http://www.fujisawa-kng.ed.jp/jmeij/

今年もよろしくお願いいたします。
新年が明け　早いもので１ヶ月が経とうとしています。
左の写真は今年の初日の出を写真におさめてきたときのものです。

能登半島地震が１月１日に起きてしまい、今でも多くの方が厳しい寒さの中、不自由な生活をされていること。一時でも早く元の生活に戻れる日がくることを願っております。
心より被災された方々にお見舞い申し上げます。

さて、昭和２２年。今から７７年前に明治中学校は開校しました。当時敷地一帯は砂丘でできた松林だったそうですが、柏の木もたくさん生えていたそうです。今は明治中の敷地にある柏の木は１本(２代目２０００年の植樹されたもの。校章に使われている「柏」です。大事にしたいですね。)。
校章のデザインは、生徒に投票した結果、１期生の大岡　仁 氏(今の３年生が７５期生)が書いた柏の葉をデザインしたものに決まったそうです。(校章デザインは上に)
柏の葉は冬になり枯れても落ちません。春になり「新芽が出る」まで木を守っています。
そのため、「断絶しない」「子孫繁栄」「長くずっと続くこと」など、縁起の良いものに例えられています。
柏の葉のように、粘り強くありたいものです。
本校の教育目標の「・・・・・**たくましく生きる生徒**」に係っている気がしてなりません。
「たくましく」を「大辞泉」で調べて見ると
①身体が頑丈でいかにも強そうに見える。
②意志が強く、多少のことはくじけない。
③意気や勢いが満ちあふれている。　　とありました。
柏の葉のように粘り強く　たくましい生徒へ成長していけるようこれからも、一緒にがんばっていきましょう。

右上の写真を見てください。これは２枚とも明治中正門脇にある柏の木から得たものです。
カラーでないと分かりづらいとは思いますが左の茶色の葉は１月に得たもの。右の緑色の葉は１０月に得たもので、今でも緑の色を残しています。ドライフラワーではなくドライリーフというところでしょうか。
枯れた「茶色の葉」は、この冬の強い風がふいても木から落ちず、春の新芽が出てくるまで柏の木全体を見守ってくれているのです。実にたくましく、頼もしい。
私には「茶色の葉」が　枯れた葉でなく、「黄金色に輝く葉」に見えてきました。(^_^)

【おまけ】柏の木は堅く、建築材、枕木、器具材として使われるそうです。柏の木すごいね。

＜通学路の交通安全確保＞
＊交通ルール遵守しよう。　＊周囲の状況に注意して通行しよう。
※ＰＴＡの校外委員の保護者の方が危険箇所など掲載したマップを作成してくださいました。とても分かりやすくて、明中学区のことがわかる構成になっていました。近々目にする事ができますので活用しましょう。

＜２年 職場体験学習＞　１／３１　２／１　の２日間で実施予定

本年度 職場体験を２学年の特別活動の行事として行います。

・１／１１　事前打合せのためのアポを電話をかけて時間等の約束、持ち物確認をする。

・１／１９　事前打合せとして各事業所に出向き、当日の服装や仕事内容・心構えなどを聞いてきています。

「こんにちは」

＊職場体験学習を通して職業のことはもとより、人との温もりを学んでくてください。

＜１年　八ヶ岳野外体験教室＞　２／１～２／３　２泊３日で実施予定

「しおり」が完成しました。実行委員長　鶴見 仁菜さんの言葉に『「思いやりの心」を大切にして全員が楽しい思い出に』とありました。

「思いやり」を一文字で表す漢字があります「 **恕**（おもいや・る，ゆる・す)」です。「思いやり」と「許す」が同じ漢字の訓読みにあるなんて不思議ですね。２つ言葉の繋がりを感じます。ただし、「許す」という言葉は「信頼」や「次への期待」から出てくる言葉だと思います。

簡単に許せないこともありますよね。「何でもかんでも許す」ことが「思いやり」ではありません。「信頼される行動」、「素直な気持ちで受けとめ次に進むことができる」これらは少なくとも「許される人」には必要だと思います。

八ヶ岳野外体験教室での３日間。どれだけ「自分も　人も　大切に」して今以上に「思いやりの心」を育てて来てください。楽しみにしています。

スキー、キャンドルファイヤー、そのスタンツ、豊かな自然の表情、ほうとうづくり。ワクワクイメージできていますか。

「 ワクワク 」

＜３年　出願　受験(受検)　発表＞

「 ひらめいた！」

・公立高校の出願が今年度からインターネット出願になりました。出願に向けて準備を進めています。公立受検日は２／１４です。

・私立高校の推薦受験は先日発表まで終わりました。

・私立高校の一般受験は現在出願中。私立受験日は２／１０です。一部別日に受験する生徒もいます。各自確認してください。

＊高校への行き方は事前に時間も合わせて調べておこう！

＊当日は、時間に余裕を持って行動できるようにしよう！

＜ストップいじめ！中学生の集いｉｎふじさわ＞

教育長のお話

２０２３年１２月２６日、「ストップいじめ！中学生の集いｉｎふじさわ」が開催されました。（毎年行われています。）

藤沢市内全ての公立中学１９校の生徒会本部役員生徒が参加して、「いじめ」に関して、真剣に生徒の目線で考える会です。

全体での会が終わると、次にグループに分かれてオンラインでの話し合い。

下の写真は各校の取り組みの様子を伝え合ったり、その後取り組みの中で気になったところを互いに質問してたり回答している様子になります。

生徒会本部のみなさまお疲れ様でした。

＊生徒会本部役員は「いじめ」についても深く考えてくれています。

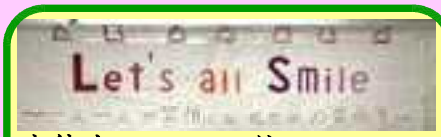
左は「３年生の学年目標」です。短文ですが思いがたくさん込められている素敵な目標ですね。

名文だなあと思って取り上げさせてもらいました。確かに中学生でいられるのは残り２ヶ月、ファイナルですね。寂しい気持ちになります・・・。４月には「中学生」から進路先での新しい呼び名に変わります。いずれにしても、今までみなさんがつけてきた力を次の場所でも発揮すること。力が足りない場合は今まで同様、「新たな力」を身につけていけば良いのですから。大丈夫。

１年生は、２年生になり、先輩と呼ばれるようになります。残りの２ヶ月で先輩になる準備をして、後輩を受け入れてあげてください。

そして、２年生は、いよいよ最上級生の３年生になります。行事、部活動、委員会、様々なところで頼られる存在です。忙しかったり、悩んだりすることもあるでしょう。そういう時にこそ、力がつくのだと思います。

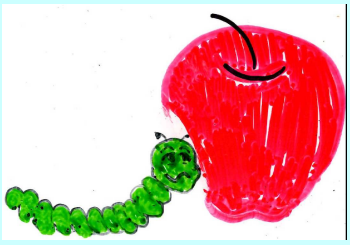
明治中の新たな柱としての活躍を期待しています。



生徒会のスローガン
「Let's all Smile」
～一人一人が笑顔に
なるための変化を～

＜伝えたいこと『一匹のいもむし』（グリム童話より）＞

一匹のいもむしが、りんごの木に住んでいました。ある嵐の晩、りんごの実ごと吹き飛ばされ、川に落っこちてしまいました。りんごの実に乗ったままどんどん下流へと流されていきました。
そうして大きな海にたどりついてしまったとき、彼は思いました。
「きっと、この大きな海の上で、魚か鳥に食べられるか、ひからびてしまうんだろうな。」と、とても悲しい気持ちになりました。
「でも今できることをしよう。今日だけ、とりあえず今日だけ生きてみよう。」
そう決めると彼は、自分の乗っかっているりんごの実を少しずつかじりはじめました。
転覆しないようにバランスをとりながら、ゆっくりと。
やがてりんごの実は皮一枚残すだけとなりました。あとひとかじりでもしたら、きっと穴があいてりんごの舟は沈んでしまうでしょう。…いもむしは思いました。
「がんばったぞ。魚たちにいじめられても、鳥たちにおそわれても、絶対にあきらめたりしなかった。ぼくは…。だから、今からできることは、きっと命が尽きるその瞬間まであきらめないこと…。」
そうつぶやくと、じっとして動かなくなりました。
数日が過ぎて、最後の力をふりしぼり、彼は目をあけました。
「最後の最後に僕ができることは、大好きなこのりんごをおなかいっぱい食べることだなぁ。そして、海の底深く沈んでいく…。」
最後の決意をして乗っているりんごをかじりはじめました。のどを通る食べ物は久しぶり。本当に幸せを感じさせてくれました。
そのとたん、大きくぐらぐらとゆれバランスをくずしたりんごの舟が、沈み始めました。
「・・・あれ？」
ふしぎなことが起きました。いもむしは、その沈んでいくりんごの舟を高いところからながめていたのです。ふり向いてみると、背中には大きくてきれいな羽が風にのって動いていました。
「いもむし」は、一匹の美しい「蝶」に生まれ変わり、「奇跡が起きた！」と喜びながら、そのまま あのりんごの木へ飛んでいきました。



この話は１つは「最後まであきらめない」ということ。
もう１つは「どんな環境の中でも今できる最善のことをやり遂げることの大切さ」
さらにもう一つ「奇跡を導くだけの過程があるからこそ得られる結果だということ」を教えてくれているように思いました。
蝶になるまでにはたくさんの体験が必要ですね。「偶然が生み出す奇跡に期待する」より、何倍も大変ですが、「何倍も可能性が大きくなること」は間違いないと思っています。

＜私が敬愛する実業家である稲盛 和夫 氏の考え＞

「人生で一番大事なもの」

取材の締め括り(くくり)に、「今日まで８６年間歩んでこられて、人生で一番大事なものは何だと感じられていますか？」と質問をしたところ、稲盛さんは間を置かず即座に、なおかつ熱を込めて、次のように答えられました。

やっぱり人生で一番大事なものというのは、
　1つは、どんな環境にあろうとも真面目に一所懸命生きること。
それと、
　もう1つは、人間は常に〝自分がよくなりたい〟という思いを本能として持っていますけれども、やはり「利他の心、皆を幸せにしてあげたいということを強く自分に意識」して、それを心の中に描いて生きていくこと。　です。

＊私たちもこの２つの条件を満たすべく、自己研鑽に努めていきたいものです。

※【利他＝他人に利益を与えること】⇔【利己＝自分だけの利益をはかること】

稲盛和夫 氏を知っていますか。
日本の実業家です。京セラ・第二電電創業者。公益財団法人稲盛財団理事長。
稲盛塾塾長。日本航空名誉会長。などなど。
一時経営破綻した日本航空の再建にリーダーシップを発揮した人。
日本経済に大きく貢献した方です。その方の言葉を再び伝えたくなってしまいました。

＜伝えたいこと(気になる言葉)＞「Well-being ウェルビーイング」とは

Well-being（ウェルビーイング）とは、心身と社会的な健康を意味する概念。
決まった訳し方はなく、満足した生活を送ることができている状態、幸福な状態、充実した状態などの多面的な幸せを表す言葉である。
瞬間的な幸せを表す英語「Happiness」とは異なり、「持続的な」幸せを意味するのがウェルビーイングだ。その第一歩は、『学び』の「喜び」や「成果」を感じること。

「ウェルビーイング」とは、教育の目的そのもの
　教育に関連する「ウェルビーイング」では、経済協力開発機構（OECD）が提唱する考え方が世界的に受け入れられています。少し難しいですが続けますね。

　OECD によると、ウェルビーイングとは
「生徒が幸福で充実した人生を送るために必要」な、心理的、認知的、社会的、身体的な働きと潜在能力」のことだというのです。

　OECD はまた、「教育の目的は」、「個人のウェルビーイング」と「社会のウェルビーイング」の２つを実現することである」としているそうです。

　教育は何のためにするのかというと、「子どもたち一人ひとりと社会全体が、現在から将来にわたって幸せで満ち足りた状態となるため」ということです。

　逆に言うと、個人も社会もウェルビーイングな状態を実現することが、教育の目的そのものなのです。
　これは、現在の日本の教育政策の基本的な考えにもなっています。

注目される背景には、経済成長一択でない、人それぞれの「幸福感」を重視する世界的傾向。　「幸福感」が一番高い国は・・・・・フィンランドだそうです。
　最大の課題は、「これまでの教育観」をいかに転換できるかだと言われています。

「 being 」と「 doing 」違いなどもよく比較されます。興味が持てれば調べてみてください。